

令和2年10月17日

北関東フォーラム

於：シムックス

## 中斎塾 北関東フォーラム

### 令和2年度 第6回

最初に紹介書籍を回覧致します。『「本当のこと」を伝えない日本の新聞』（マーティン・ファクラー著 双葉新書）です。8年前に書かれたものです。3.11の大震災の時、外国では日本の現状がきちんと報道されていましたが、日本の国民には伝わっていませんでした。具体的なことを申しますと、地震のすぐ後に外国に伝わっていたのは、日本で大地震があつて原発事故が起きた。放射能で汚染された地域がどんどん広がっている・・・という報道でした。日本で報道されていたのは、津波が押し寄せて家屋敷や車が流されている光景でした。それもよく見ると、人が流されている映像など悲惨なものは映していませんでした。やはり日本の場合は報道管制があるなど、この本を読むと伝わってきます。今現在どういう状況になっているかという報道が、相変わらず“大本営発表”をやっている。記者クラブの存在についても考えなければならぬと感じます。

もう一冊は、『日本国はいくら借金できるのか？』（川北隆雄著 文春新書）です。これも8年前に書かれたものです。中を読むと、あと7、8年で日本の国は破綻すると書いてあります。この本の通りであれば今年はまだ経済破綻を起こしているわけですが、そうなっていません。それはなぜか・・・を考えるとよろしいでしょう。また、経済破綻を起こすと我々の日常生活にどう影響があるか真剣に考えなければならぬ、ということが提起されています。

これからはコロナ禍ということもあって、個人個人のお金がだんだん不足して来ます。コロナ禍で直撃を受けた方は一挙に収入がなくなっています。いずれにしても順調にお金が手元に入らなくなるわけです。これがニューノーマルの一つの姿です。それが進んでいくとどうなるか……。コロナ禍が終わればスタグフレーションが発生します。スタグフレーションとは不況下における物価高ですから、収入は減り、物の値段が上がるということです。

先日、新幹線の座席のポケットに入れてある雑誌で面白い記事を見つけました。齊藤誠さんという大学教授が書かれたもので、終戦直後に起きた日本のインフレについて、「戦後の45年～50年の5年間で物価が100倍になった」とありました。

コロナ禍の後にスタグフレーションが起き、インフレが起きる。それも凄まじいインフ

レになる可能性があります。ドイツ並みとまではいかななくても、日本の場合も5年間で100倍になったというのですから、ハイパーインフレの小さいものですが、同じことが今後も十分起き得ると思っています。そして、その次に出てくるのはデフォルト（踏み倒し）です。

日本の国がどんどん悪化していくけれども、国がおかしくなっていくことを新聞は報道しません。柔らかく報道するわけですから、はっと気がついたら“ゆで蛙”になってしまいう。そういう状況に国民は置かれているので、報道は信用できないということです。ならば、これから新聞をどう見ればよいか、ネットのニュースをどう見ればよいか問題になって来ます。それには日本の国の現状をよく調べるのが大事です。その調べ方を自分達でも覚えておかねばならない。・・・ということが、御紹介した2冊に出ています。

それから、もう一冊ご紹介します。『コロナショック・サバイバル 日本経済復興計画』（富山和彦著 文芸春秋）です。今年5月に出版された本です。JALがどう再建したか、今回のコロナショックでANAが日本政策投資銀行から3000億円借り入れるという状況も書いてあります。現時点でどういう企業がどんな状態か、これからどうやればよいかについての処方箋を書いた、とあります。

今日、お配りした季刊誌「知足」に6月20日の北関東フォーラムの講話録が載っています。読み直してみたら、情報を盛り沢山過ぎたなど反省しています。

コロナを見るのにペストとスペイン風邪を参考にしました。その時どういう状況でどんな対策をとったかに触れました。それから、会員からの質問のMMT理論について、「日本は今MMT理論の壮大な実験をしている。日本人は気がつかなくても、日本の国はいつ破綻するのか、或いは破綻しないのか、その鍵を握るのがMMT理論だ」と申しました。又、総理大臣の資質について申し上げました。他にも、コロナの元になっている細菌戦争についてもお話しました。更に、第二波はいつ頃起きるか、どう対応すればよいか、コロナ後の日本の状況を想定しました。

以上、4ヶ月前にお話ししたことですが、だいたい現状を見てもおかしくないと思いますので、皆さんはこれを読んで、全部チェックして調べるのは難しすぎるので、気になったもの1つか2つだけを掘り下げて調べて戴きたいと存じます。

更にもう一冊ご紹介します。『元号戦記』（野口武則著 角川新書）、毎日新聞の記者が書いた本です。つい先日発行されたばかりですから、まだ本屋に並んでいないと思いま

す。ご存知のように中齋塾フォーラムの顧問の石川忠久先生が斯文会の理事長を退任され、名誉副会長に就任されました。先生が理事長の最後の頃に新元号の考案にあたったことは何度かお話していますが、新元号制定に至るまでの裏話が書かれています。

### 論語の視点

先週の東京フォーラムから講話の仕方を変えました。前半は色々な問題点をあげて、後半でその解決策を話して欲しいという注文が多くありましたので、そういう方向で行こうと考えています。今、役員さんを中心にオンライン講話の配信を計画しています。本日の講話もズームで同時配信しているので、東京の会員さんで視聴されておられる方もいると思います。後々は、ズームで講話を受けるズーム会員のようなものも考えているそうです。

では、論語の視点に参ります。先ほど素読をして戴きました。素読は、漢文（古代中国語）を読んでいます。古代中国語が日本に入って来た時、昔の日本人はどうやって読めばよいか分からなかったわけです。そこで送り仮名や返り点をつけて、日本人向けに読みやすくしました。こういうことは他の国では考えられません。日本人特有の能力です。ですから我々が今ここで素読をしたということは、とても珍しい言語体系の一つを無意識のうちに学んでいるとお考え下さい。

では、解説致します。今日は微子篇8です。少しずつ区切って解説致します。

**【八】** いつみん 逸民は、はくい 伯夷・しゅくせい 叔斉・ぐちゆう 虞仲・いいつ 夷逸・しゅちゆう 朱張・りゅうかけい 柳下恵・しょうれん 少連。

しいわ 子曰く、そ 其の こころざし 志 くだ を降さず、そ 其の み 身を はずか 辱しめざるは、はくい 伯夷・しゅくせい 叔斉かと。

古の隠者で賢なる者は、伯夷・叔斉・虞仲・夷逸・朱張・柳下恵・少連。

孔子が言われた。高い志を持って、人に屈せず潔白を守り続けたのは伯夷・叔斉だろう。

・・・伯夷・叔斉は兄弟です。二人の父親は一国の君主でした。父親は弟の叔斉に王位を継がせようとしたのですが、叔斉は長幼の序をもって兄の伯夷に継がせるべきだと拒否し、二人で譲り合い、結局二人とも出奔しました。その後、素晴らしい徳をもっていると評判の周の文王の元に向かいますが、既に文王は亡くなり、子供の武王が殷に攻め入る途中に出くわします。二人は武王に対して、父親の喪があけないうちに戦をするは孝の道に外れるのではないかと諫め、周の国に仕えて録を食むことを潔しとしなかった。そして首陽山に籠って山菜を食べて生きていたけれども、遂に飢死してしまったという話です。

伯夷・叔斉は、汚れた食べ物は食わずに身を清潔に保ち、餓死するまで自分の理想を守り続けた、なんと徳行の高い人かと孔子が評価をしたわけです。

似たような話が日本の終戦直後にもありました。当時は国が配給する食料ではとても足

りないので、皆、闇市で食料を手に入れていたわけです。或る裁判官が国が配給する食料で生きるべきだと自分の信念を貫いた結果、餓死してしまったという事件がありました。

虞仲・夷逸・朱張・柳下恵・少連については、色々な論語の解説本で学者の先生方が説明をしておられますので、何か1冊選んでお読みください。ちなみに私は、宇野哲人先生と貝塚茂樹先生と洪澤栄一の論語講義をベースにしています。

りゅう かけい しょうれん い こころざし くだ み はずか げん りん あた こう りょ あた そ  
柳下恵・少連を謂う、志を降し身を辱しむ。言は倫に中り、行は慮に中る。其  
れ斯れのみと。

柳下恵と少連を評して言われた。彼らは理想の旗を下ろして、自分が仕えたくないと思う国でも、志を屈して仕えた。しかし、主張することは正しいし、行動も良かった。それだけは評価できる。

・・・私が論語を読む時は、現代の日本に置き換えて考えることを必ずしています。それを皆さんにもお勧めしています。ですからここは、現代の日本に置き換えて、柳下恵と少連に似たような官僚がいるだろうか、政治家はどうか・・・お考え下さい。今、官僚は内閣総理大臣を付度しています。政治家も付度だらけですね。

ぐちゅう いいつ い いんきょ ほうげん み せい あた はい けん あた  
虞仲・夷逸を謂う、隠居して放言し、身は清に中り、廢は権に中る。

虞仲・夷逸は隠居をして身を清潔にし、言いたいことを言っても時宜に応じた良い行いをしている。

・・・現代で考えると、隠居をしても言いたい放題発言し、その言論がどんどんネットで流れていく。それがまた時宜に当たるから、世間から「なるほど！」と言われる。こういう人物を考えると、民間にちらほら見えますね。

われ すなわ これ こと か な ふか な  
我は則ち是に異なり。可も無く不可も無しと。

私はこの人物たちとは違う。物事に対処した時点で最善をとれば良いので、あらかじめこれが良い・これが悪いと決めておくことはしない。

では、今日の論語を現代に置き換えて考えます。

今の日本の政治家の中に、伯夷・叔斉のように身を正しくして飢え死にさせてでも理想を貫くような人がいるのでしょうか。とてもこういう人物がいるようには見えませんね。ただ日本人ということで見ると、内村鑑三が『代表的日本人』という本の中で紹介している8

人などは、伯夷・叔齊に近いと感じます。

『代表的日本人』は、内村鑑三がキリスト教の立場で見て、世界に発信すべき日本人を8人選んで書いたものです。私は今、その中の一人、中江藤樹について本を書いている最中です。日本の国の中で「聖人」と言われたのは、「近江聖人」の中江藤樹一人です。世界で見ても、聖人と呼ばれたのはキリストや釈迦、孔子といった人たちです。聖人という言葉の意味が同じように使われたかについては問題がありますが、少なくとも「近江の聖人」と言われたことは間違いありません。それは何故かということ、徳を積んだからです。陰徳、つまり目に見えないところで人の為になる良いことをし続けた人だからです。今の政治家にこういう人物が出てくれると良いなと思います。

柳下恵と少連は、志・理想を曲げても今の政府に仕えて、自分の主義主張を世の中で実行しようと努力している人物です。日本の国の官僚を眺めてみると、そういう資質を持っている官僚は多いと思います。残念ながら、良い政治家と出会っていないのだろうと思います。一人ひとりの役人と話をすると、まともな事を考えまともな仕事をしていると見える人が散見されます。しかし組織として見ると、日本の国の組織は前例踏襲で進んで来ているから、国のあり方としてはおかしいと思っています。日本の国を一度根底から見直して、やり直しをしないと、政治家も官僚も官僚組織も良くならないという気が致します。今は継ぎはぎだらけて来ているところだと思います。

虞仲・夷逸は、隠居して言いたいことを言いたい放題に言う、しかし時宜にあっている人物です。今の日本にそう見える人は結構います。ただ、二通りですね。世の中から拍手を貰えばよい、収入が増えればよいと思って発言をしている人は数多い。自分なりの信念をもって発言し、世の中から受け入れられなくてもよいというスタンスでやっている人は少ない。具体的に名前を出した方がよいかもしれませんね。世におもねらないで自分の信念を出しているということで、次回に本をご紹介します。

## 足るを知る

中斎塾フォーラムの基本哲学は「知足」。足るを知る、ほどほどというものの考え方です。足るを知るという観点からみたら、立憲民主党の進め方はいったいどうだろうか？メディアに関してはどうだろうか？ 学術会議についてはどうか？ GOTOトラベルについてはどうか？ デジタル化についてはどうか？ ……こういう問題を判断する時、私は判断の三原則で考えます。本質・歴史・大局で見て、どう判断できるか、結果として自

分自身はどういう行動をとればよいかを考えます。後半は、その観点で掘り下げます。

### 身体の手入れ

後半は恒例の質問から参ります。コロナの最中ということでお考え下さい。

#### ○ 良い日が比較的続いている方

何度も申しますが、客観的に見て良い日と悪い日の分量をくらべるのではなく、良い日が続いていると思えばよいのです。手が挙がらない人は、困った事が続いていると思うからでしょうが、その考え方自体、自分がマイナスに入ってしまうから、良いことが少しでもあったらそれを拡大解釈すればよい。悪いことはフッと吹き飛ばしてしまえばよいのです。そういう感覚で人生を過ごしていった方がよいと思います。

#### ○ このところ嘘をついていないと思う方

#### ○ 有難うと言ひ、有難うと言われることが多いと思う方

有難うと言われることが少なくなればなるほど、自分が縮んできているのだと思って下さい。有難うと言われることが増えている人は、プラスの人生が進んでいると思って戴いてよいでしょう。

#### ○ 健康法を実践している方

女性は25歳を過ぎるとお肌の曲がり角と言われますが、体力の曲がり角は幾つぐらいから感じますか？

60歳以前に感じた方？・・・3人おられました。

50歳までは体力の衰えをあまり感じないようですね。私の体験でいくと、55歳を過ぎたあたりから体力の陰りを感じました。私は28歳でシムックスを創業し、30年経った58歳で社長業をバトンタッチしました。その1、2年前から、体力的に持たないと感じながらも頭に冷えピタを貼って何とか仕事をしていましたが、家内から「このまま社長を続けていたら死にますよ」と何度も言われました。自分でもその通りだと感じて、58歳でバトンタッチをしました。

これも私の体験から申しますと、60代になったら朝起きたら身体の手入れを30分位した方がよいと思っています。65歳を過ぎたら、その時間を少しずつ増やします。何か力仕事をして、翌日に節々が痛いと感じるのは50代ですね。60代後半になると、一日おいて二日目に身体の痛みが出て来ます。私は今70代ですが、朝起きて手を動かそうとしても、こわばってまともに動かない。身体の手入れを1時間くらいすると、五体満足に動いてくれます。今朝も運動をしてから会社に来ました。そして、朝稽古では山崎先生に棒を使った身体のほぐし方を教えて戴きました。やはり70代は1時間くらい身体の手入れの時間が必要

ですね。

女性はお肌の手入りに、どれくらい時間をかけるのでしょうか。大事なのは外側だけやるのではなく、身体の中、心を磨くことを一所懸命やることです。女性の場合、心の美しさが表情に表れてきます。男性の場合は、筋肉を鍛え続けることによって表情にも出てくるという気が致します。男性女性問わず、60歳過ぎたら身体の手入りを意識的にされると良いでしょう。

ちなみに私が今やっている健康法は、手を前に出して腿をつける腿上げ運動を毎朝 800 回、かかと落としを 300 回、相撲の四股踏みも 30 回です。これは、ある程度身体がほぐれてからやります。私の年代からするとやり過ぎですから、普通はこの 10 分の 1 くらいが良いと思います。自分の身体にあった回数が自然と分かって来ます。無理に回数を増やすことはありません。中身を濃くすればよいわけです。

○ 自分磨きを一所懸命やっていると思う方

○ 昨晚寝る時に明日、又は明日以降の出来事を過去形でイメージして眠れた方  
お金持ちになる秘訣は、寝る時に明日の事を過去形でイメージ出来る方だそうです。

### 問題を掘り下げる

では、前半の最後で申しました問題について、判断の三原則（本質・歴史・大局）で掘り下げます。

本質は、根っこは何だろうと考えることです。誰かが発言をしたなら、その人の本音は何か、何か問題が起きたのなら、真の原因を追究することです。

歴史は、その問題について歴史を遡って追ってみるということです。ただ気をつけなければいけないのは、公に出ている歴史は為政者に都合のよいものになっているということです。新元号「令和」は万葉集が出典ですが、古事記や日本書紀が表の歴史（権力者側の歴史）を語っているのに対して、万葉集は裏側の歴史を語っていると言われています。

ちなみに今回の元号制定については、歴史的に見て、きちんとした手順を踏んでいませんでした。というのは、中西先生の「令和」は、土壇場になって最終案に滑り込ませたものでした。安倍総理の意向に沿ったわけでしょう。たまたま二松学舎の出身の方が元号を選定する際の官邸側の役人でしたし、元号案を委嘱されたのも二松学舎関係の先生が多くおられましたので、その裏側を知ることが出来ました。先ほどご紹介した『元号戦記』にもこの経緯が書かれています。ですから、歴史を見る時には、表側の歴史と裏側の歴史の両方を見る必要があるということです。

大局は、世界はどういう状況になっているかを見ます。一例を挙げましょう。

ソ連からロシアに変わりました。その前後で私はロシアに3回行きました。経済破綻を起こした国がどういうものか、何故経済破綻を起こしたかを調べるためです。最初はソ連の時に、青年会議所のメンバー10名くらいで行きました。行く前に警察庁から呼び出されました。政治家や有力な財界人、そしてその卵たちは呼び出しが掛かるようです。余計なことをしないように、特に女性には気をつけないと弱点を掴まれて後で情報を要求されたりして大変なことになると釘を刺されました。

共産主義社会は中国も同じですね。ただ、ソ連ほどあからさまにはやりません。私の印象では、ソ連は強面で相手の弱点を捕まえるようなやり方をしますが、中国は先にエサをぶら下げています。孔子学院なるものが世界に広がったけれども、本音が見えたので外されましたし、一带一路も本音が垣間見えて世界から嫌われるようになりました。ですからロシアのやり方と中国のやり方はそれぞれ違うわけです。

このように大局的に見る時には、具体的に比較してみると納得するものがいくつも見えてきます。

**コロナ禍**・・・前半でも申しましたが、これから起きてくるのはスタグフレーション、そしてハイパーインフレです。一番早く出るのは預金封鎖です。預金封鎖は新札が発行される頃でしょう。渋澤栄一の新札は、その頃には記念切手の扱いになると私は思っています。

その次に出てくるのは富裕税です。戦後の日本はお金持ちに大変な資産税をかけました。日本の国がこれだけ国債を発行し続けて、まともに済む訳がありません。MMT理論なるものはいくら国債を発行しても破綻しないと言っていますが、世界から見て日本はMMT理論が正しいかどうかの実験をしているという意味で注目をされているわけです。私は、MMT理論は外れるだろうと思っています。

**立憲民主党**・・・烏合の勢力を結集したけれども、根っこに日本の国をよくするためにどういう方針でどういう行動をとる、という基本的なものがない。したがって野党のままでいかざるを得ません。ただ、小沢一郎さんが入ったがために、これから違った動きをすると思います。小沢さんは過去の人とされていたけれども復活してきました。立憲民主党が化けるとしたら、小沢さんの力をとことん吸い尽くすことであろうと考えています。ですから、小沢さんがどういう動きをしたかが鍵ですね。枝野さんではありません。

私は歴史で見る時に、干支学で見ます。60年前にどういうことが起きたかということ、同じようなポジションにあった社会党の浅沼委員長が演説中に刺殺されました。ですから立

憲民主党の枝野党首が死なないまでも相当な重傷を負ったなら、かなり形が変わるのではないかと考えています。

ちなみに私が若い頃、右翼の理論派のトップにいた老活動家に話を聞いたことがあります。その人曰く、「今の政府は右翼の使い方を間違えている。我々右翼は一人一殺をもって命とす（日本のためにならない人間は、自分の身を捨てて殺す）。成し遂げた暁には、靖国神社に祀られないことを誇りとすべし」・・・表現の仕方は色々物議がありますが、現実に本人に会って話を聞くと、かなり迫力があると感じたことを覚えています。それに比べると、今の政治家も右翼もまったく迫力がないと感じます。

**メディア**・・・事実を報道するようになれば、変わると思っています。前例踏襲で、事実を報道しないことがあります。サラリーマンが増えて、首の据え替えが多すぎます。日本の政治家も首の据え替えが多すぎました。安倍さんは長すぎましたが。組織のトップが一番理想的な期間は6年、いくら長くても8年で終わり。そこらへんで見ておくが良い・・・これは財界の鞍馬天狗と呼ばれた中山素平の台詞です。

ということで、メディアもトップがころころ替わらないで、事実を事実通り報道すればよいのです。今の報道はそれが出来ていません。

**学術会議**・・・何故理由を言わないのか、私は不思議でなりません。事実がポロポロ出てきているので、そう遠からずにそれらしい話が出てくると思っています。

**デジタル化**・・・政府はデジタルを進めたいわけでしょうが、その中で私が気になるのはマイナンバーです。マイナンバーカードと免許証を一体化させるという話も出ています。マイナンバーについては、私は絶対に取得したくないと思っています。マイナンバーは国民一人ひとりから必ず税金をとりたい、それが最大の目的だとなぜ言わないのかと思いつけています。本音を隠して、良さそうな話だけをする政府は信用できないと思っています。

**GOTOトラベル**・・・下手な鉄砲も数撃ちゃ当たるで、お金の出し方が下手だったけれども、やらないよりは良いだろうと思っています。コロナはもうニューノーマルで共生です。ペストやスペイン風邪の頃は、感染症が100年単位で発生していました。今は50年、30年、10年とどんどん短くなっています。ウィルスとの共生は、コロナでなくても当たり前になってきます。

我々が氣をつけておかねばならないのは、強毒性が出た時です。その時は、私は日本人

も 50 万人、酷ければ 100 万人が亡くなるとふんでいます。強毒性が発生したら、会社も役所も封鎖でしょうから、仕事が出来ない状況になるでしょう。最低限の仕事をするためにはどうしたらよいか、スイッチを切り替えなければいけないし、個人の家庭も本気で巣ごもりをしなければいけないと思っています。ロックダウンならぬ、ロックハウスです。私は今、3ヶ月くらいは巣ごもりしても生きていけるような食べ物・飲み物、燃料等々の準備をしています。

また、大地震や津波、豪雨といった自然災害も起こり得ます。太田市のハザードマップによると、この建物も2階近くまで水が来るようです。平屋は水没すると思っていますので、自宅に水難対策としてゴムボートを買いました。更に、疎開をする手筈も整えました。

今やらねばならないものは、コロナ禍で考えれば、待ったなしの状況になっています。特に強毒性という話が出た時には、個人も会社もスイッチを切り替えて手を打たねばならないと思って下さい。

お時間が参りました。本日の講話を終了致します。